

美しき夜のはじめの破蓮

藤田湘子

どんな人間の遺伝子の中にも「美味しいものを食べ、美しいものを見たい」という欲求は受け継がれている。

たとえば、光の無い暗黒の夜では全く何も見えない。しかし、「夜のはじめ」ならまだ光も残り、ナニモノかが見え、きつと脳裏に捉えられたはずである。

夏から秋へ。そして、大風に煽られた後の蓮池に広がる破蓮の情景。季感の無い極楽浄土のような明るい蓮池ではなく、夕闇に包まれた残像と静寂の音のみが伝わる時間と空間。蓮華でも枯蓮でもなく「破蓮」を選び取った湘子の美意識。囁目吟とは思えない完成度の高い一句である。

高野素十には「美しき春潮の航一時間」がある。

1977年 (552作) 第五句集『春祭』 鑑賞・轍郁摩